

平成23年4月15日

## 重要文化財（建造物）の指定について

文化審議会（会長 西原 鈴子）は、平成23年4月15日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに8件の建造物を重要文化財に指定することを文部科学大臣に答申しました。

この結果、近日中に行われる官報告示を経て、重要文化財（建造物）は、2,381件、4,449棟※（うち国宝216件、264棟を含む。）となる予定です。

※同日答申の指定解除1件、1棟を除いた総数

◎今回の答申における特筆すべきもの

【重要文化財】 せいとくきねんかいかん 聖徳記念絵画館 東京都新宿区

めいじじんぐうがいえん 明治神宮外苑の絵画館として知られる重厚な外観の建物で、わが国最初期の美術館建築である。青山通りからイチョウ並木の奥に望む姿は、東京を代表する都市景観のひとつとなっている。

【重要文化財】 ゆすはら 柞原八幡宮 本殿ほか 大分県大分市

ほんでん 本殿は類例の少ない八幡造本殿として貴重。境内の建物配置や各社殿しゃでんの形式に特徴があり、九州地方における神社建築の展開を理解するうえで重要な社殿群である。

<担当> 文化庁文化財部参事官（建造物担当）  
参事官 村田 健一（内線 2790）  
調査部門 武内, 金井（内線 2793）  
管理・登録係 板場（内線 3160）  
電話：03-5253-4111（代表）  
03-6734-2792（直通）

## 【新規指定の部】

- ① 室内意匠に技巧を凝らした豪奢な近代和風住宅。（近代／住居）

旧高橋家住宅 7棟  
主屋、蔵座敷、土蔵、東板倉、西板倉、  
金庫蔵、表門、土地

岩手県奥州市  
奥州市



旧高橋家住宅は旧水沢城下に所在する住宅である。明治21年に建てられた主屋は、唐破風造の式台玄関を構える豪壮な外観をもつ。また各室を障壁画や貝片入りの砂壁で飾るとともに、座敷飾りや天井など技巧を凝らした装飾的なつくりで、銘木を多用している点にも特徴がある。

旧高橋家住宅の主屋は、近代らしい自由で創意に富んだ意匠になる大型の住宅建築で、明治期の東北地方における豪奢な近代和風住宅のひとつとして貴重である。また表門や蔵座敷なども良好に保存され、明治期の素封家の屋敷構えをよくとどめており、高い価値が認められる。

旧高橋家住宅の主屋は、近代らしい自由で創意に富んだ意匠になる大型の住宅建築で、明治期の東北地方における豪奢な近代和風住宅のひとつとして貴重である。また表門や蔵座敷なども良好に保存され、明治期の素封家の屋敷構えをよくとどめており、高い価値が認められる。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

- ② 優れたデザインと技術による、わが国最初期の美術館建築（近代／文化施設）

聖徳記念絵画館 1棟

東京都新宿区  
明治神宮



聖徳記念絵画館は明治神宮外苑の中心施設で、明治天皇の事績を描いた絵画を展示する美術館である。明治神宮造営局の実施計画により大正15年に竣工した。

建物の中央に、ドーム屋根を戴く吹抜の大広間において左右に絵画室を配置した構成で、外観は花崗岩による重厚な仕上げとし、内部は大理石やモザイクタイルで壮麗に飾る。

聖徳記念絵画館は、わが国最初期の美術館建築で、直線を強調した造形表現により、記念性の高い重厚な外観意匠を実現しており、高い価値が認められる。またドームのシェル構造や絵画室の採光などに先駆的な技術が取り入れられており、わが国の建築技術の発展を知る上でも重要である。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの及び技術的に優秀なもの

## ③ わが国最初期の鉄筋コンクリート造による和風建築（近代／文化施設）

明治神宮宝物殿 13棟

中倉、東西倉（2棟）、東西廊（2棟）、  
東西橋廊（2棟）、東西渡廊（2棟）、  
北廊、車寄、事務所、正門

東京都渋谷区  
明治神宮



明治神宮宝物殿は境内の北辺に位置し、明治天皇ゆかりの御物を収蔵・展示するための施設として明治神宮造営局の大江新太郎が設計を行い、大正10年に竣工した。

展示施設の中倉を中心として各建物を左右対称に配置した構成で、中心建物を高床とし、校倉造や寝殿造などを基調とした独特の和風意匠でまとめている。また耐震・耐火のため建物全体を鉄筋コンクリート造とし、中倉では東西30m、南北15mの大空間をつくり出している。

明治神宮宝物殿は、わが国の伝統的な建築様式を集成し、力強い造形表現を実現しており、高い価値が認められる。また、建物全体を鉄筋コンクリート造とした和風意匠の建築物ではわが国最初期のものであり、建築技術史上においても重要である。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの及び技術的に優秀なもの

## ④ 古い形式をよくとどめる富士山御師の住宅（近世以前／民家）

旧外川家住宅 3棟

主屋、離座敷、中門、土地

山梨県富士吉田市  
富士吉田市



旧外川家住宅は、富士吉田市街に所在する富士山御師の住宅である。街路から奥まった敷地に、主屋と離座敷が前後に並び建つ、富士山御師住宅の典型的な屋敷構えをもつ。

主屋は明和5年（1768）の建築で、年代の明らかなものとしては最も古い富士山御師住宅の遺構である。また江戸末期の建築とみられる離座敷は、中央部に神殿を備え、背面に上段の間をつくるなど、富士信仰の流行とともに発展した姿をよくとどめており、この点でも高い歴史的価値が認められる。

このほか中門や水路なども、特徴的な敷地割とともに良好に保存されており貴重である。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの及び流派的又は地方的特色において顕著なもの

## ⑤ 優れた意匠の近代建築からなる温泉施設（近代／文化施設）

<sup>かたくらん</sup>片倉館 3棟  
<sup>よくじょう</sup>浴場、<sup>かいかん</sup>会館、<sup>わたりろうか</sup>渡廊下

長野県諏訪市  
財団法人片倉館

片倉館は、諏訪湖周辺を本拠地として製糸業を営んだ片倉家が公共の福利厚生施設として建設した温泉施設で、昭和3年に竣工した。

<sup>もりやままつのすけ</sup>森山松之助の設計で、浴場と会館は、急勾配の<sup>きりつま</sup>切妻屋根と<sup>たいよくしつ</sup>大浴室を中心とした外壁とし、<sup>ようしよ</sup>要所に<sup>せんとう</sup>尖塔をたてるなど変化に富んだ外観になる。

浴場の内部は、<sup>たいよくしつ</sup>大浴室を中心にステインドグラスや彫像などで華やかに飾り、また会館の内部は150畳敷の大広間を中心とした伝統的な和風のつくりとする。

片倉館の建築は、独創的な意匠をもち、内外装飾の密度も高く、近代におけるわが国建築家による洋風意匠の展開を示す建築のひとつとして重要である。また、実業家の手による最初期の公共の福利厚生施設として、高い歴史的価値を有している。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの及び歴史的価値の高いもの



## ⑥ 近代京都における最初期の別邸建築（近代／住居）

<sup>みつい</sup>旧三井家下鴨別邸 3棟  
<sup>おもや</sup>主屋、<sup>げんかんと</sup>玄関棟、<sup>ちやしつ</sup>茶室、土地

京都府京都市  
国（財務省）

旧三井家下鴨別邸は、<sup>かもみおや</sup>賀茂御祖神社（下鴨神社）の南側に所在する。大正14年に、明治13年建築の<sup>きやまち</sup>木屋町別邸の主屋を移築し、あわせて<sup>げんかんと</sup>玄関棟を増築し完成した。

主屋は、三階に<sup>ぼうろう</sup>望楼をもつなど開放的なつくりで、簡素な意匠でまとめられている。また<sup>げんかんと</sup>玄関棟は、和風意匠を基調としつつ<sup>いすざしき</sup>椅子坐式の<sup>うめぼちがた</sup>室内構成として天井を高くするなど、近代的な<sup>おもむき</sup>趣をもつ。茶室は、次の間に<sup>うめぼちがた</sup>梅鉢型窓と円窓を開けるなど特徴ある意匠になる。

旧三井家下鴨別邸は、近代京都で最初期に建設された主屋を中心として、大正期までに整えられた大規模別邸の屋敷構えが良好に保存されており、高い歴史的価値を有している。

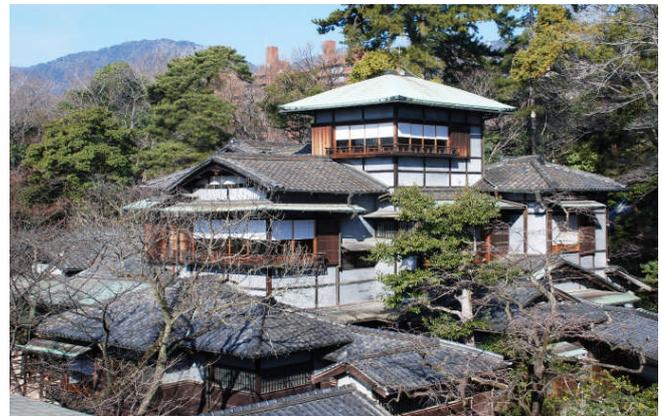
○指定基準＝歴史的価値の高いもの



⑦ 優れた意匠の洋館と和館からなる近代の大規模住宅（近代／住居）

旧村山家住宅 6棟  
 洋館、書院棟、玄関棟、茶室棟、  
 衣装蔵、美術蔵、土地

兵庫県神戸市  
 公益財団法人香雪美術館



旧村山家住宅は、朝日新聞社を創業した村山龍平の自邸で、六甲山南麓の広大な敷地に洋館や書院棟などを配置している。

洋館は明治41年の上棟で、外観をハーフ・ティンバー式とし、内部は様々な洋風意匠を融和させて華やかに飾る。書院棟は大正7年上棟の大型和風建築で、三階を望楼とするなど複雑な立面構成をもち、内部には広大かつ優美な意匠の大広間を備える。また茶室棟は明治44年上棟の茶室玄庵を中心とした瀟洒な建築である。

旧村山家住宅は、阪神間に展開した邸宅群の先駆をなした大規模住宅で、優れた意匠をもつ洋館と、書院棟、茶室棟などの和風建築が一体的かつ極めて良好に保存されており、高い価値が認められる。

○ 指定基準＝意匠的に優秀なもの

⑧ 八幡造の本殿を中心とする特徴ある社殿群（近世以前／神社）

柞原八幡宮 10棟  
 本殿、申殿、拝殿、楼門、東宝殿、  
 西宝殿、東回廊、西回廊、西門、南大門

大分県大分市  
 柞原八幡宮



柞原八幡宮は大分市西部に所在し、寛延2年（1749）の火災後に、社殿が順次再興された。

本殿は桁行五間の後殿と前殿からなる八幡造形式の社殿で、嘉永3年（1850）に上棟した。

内部は内陣と外陣からなり、外部は彩色などで荘厳している。また本殿の周囲には、楼門や申殿、宝殿などが、特徴的な配置で建ち並んでいる。

柞原八幡宮の本殿は、類例の少ない八幡造本殿であるとともに、楼門や申殿を軸線上に並べるなど、宇佐神宮を範とした独特の本殿形式と社殿配置をもつ。また本殿は、縁に「花堂」と呼ばれる小建築を設け、楼門は下層に軒唐破風付の庇を付すなど特異な形式で、顕著な地方的特色を示している。

○ 指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

〈個別解説凡例〉

番号 特 徴 (年代区分／種別)

名 称 員 数

複数棟指定の場合の建造物の名称, 土地\* 等 (\*建造物と一体をなして価値を形成している  
土地をあわせて指定するもの。)

所 在 地

所 有 者

## 重要文化財（建造物）の指定件数

平成 23 年 4 月答申

(重要文化財)

	種別	現在指定数		新規指定		指定解除		合計	
		件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
近世以前の分類	神社	563	1,175	1	10			564	1,185
	寺院	849	1,122					849	1,122
	城郭	53	235					53	235
	住宅	94	150					94	150
	民家	344	785	1	3			345	788
	その他	192	262					192	262
	小計	2,095	3,729	2	13			2,097	3,742
近代の分類	宗教	24	31					24	31
	住居	73	248	3	16	1	1	75	263
	学校	38	65					38	65
	文化施設	31	39	3	17			34	56
	官公庁舎	22	27					22	27
	商業・業務	20	27					20	27
	産業・交通・土木	66	221					66	221
	その他	5	17					5	17
小計	279	675	6	33	1	1	284	707	
合計		2,374	4,404	8	46	1	1	2,381	4,449